

学校評価～中間評価の結果と分析・改善策～

本校の教育目標 「心豊かに 思いを伝え合い とともに高め合う子の育成」

めざす児童像 自分の考えを持つ子 自分を表現する子 人を大切にする子
他者と協働する子 チャレンジする子

①確かな学びのある学校づくり

○保護者・児童は学力についてだいたい身に付いていると実感している。

▲基礎学力（漢字・計算）の強肯定の児童の割合が低い。

□考察

- ・100点でないとできているといえないという思いがあり、自信が持てていない。
- ・学力の定着に時間がかかる児童がいる。

☆改善策

- ・繰り返し基礎学力を身に付ける学習を行う。
- ・ガッツテストを繰り返し行った後などに、成果があったことを実感できる声かけをする。

②温もりのある学校づくり

○「学校は楽しい」と回答する児童が100%と肯定的割合が多い。保護者も9割ほどと肯定的意見の割合が高い。

▲家庭でお手伝いや役割をさせていると考える保護者が少ない。

□考察

- ・学校では、掃除、係の仕事、当番などを通して自己有用感をもって活動できているが、家庭では役割をさせていると考える保護者が少なく、家庭での役割を考えて行動する意識が弱い。

☆改善策

- ・係の仕事、当番、掃除など学校や学級の役に立っていることを伝えていく。
- ・家族の一員として、家族の役に立てることを考えさせ、取り組ませる。

③健康な体を育む学校づくり

○規則正しい生活習慣について、児童・教職員は肯定的な回答が多い。

▲規則正しい生活習慣が身についていると考える保護者の割合がやや少ない。また、強肯定の割合は、教職員が最も少ない。

□考察

- ・早寝・早起き、朝ごはんなどの習慣が身につけていない児童が一定数いる。

☆改善策

- ・毎日の健康観察や生活ふりかえりカードの取組から、気になる児童には日常的に声をかけるなど、積極的に指導を行う。

④地域と連携した郷土愛を育む学校づくり

○どの項目も90%以上で肯定的な回答が多い。

▲強肯定の平均は48.5%である。

□考察

- ・各学年で地域のよさ（人的・物的・資源）を生かした体験的な活動を計画的に行っていた。強肯定の割合が44.4%であること理由として、コロナ対策のために活動が減っていることが理由として考えられる。

☆改善策

- ・コロナ対策をしながらも、2学期中に各学年1回以上地域のよさ（人的・物的・資源）を生かした体験的な活動を計画・実施する。

⑤教職員のチーム力を生かす学校づくり「チーム蛸島」

○定時退校日を意識したり、マイ定時退校日を設定したりして、業務を行っている。

○肯定的意見はどの項目も100%である。

▲項目14「共通理解・共通行動に努め、のりしろを意識して、協力して行動している」の強肯定が14%と低い。

▲柱全体の強肯定の割合は高くなく、38.1%である。

□考察

- ・肯定的意見は100%だが、強肯定の割合は38.1%なので、明確な根拠や強い自信がない可能性がある。

☆改善策

- ・共通理解・共通行動の確認を週に1～2度は全員で行う。（掲示板・研修・職朝）
- ・全員の職員が、マイ定時退校日を実施できるように、掲示・声かけをする。